

## 向春

第13期 井上 雄哉

立春，である。とは言っても，いまだ寒風吹き荒ぶ2月は初旬。暦通り，春の訪れを感じさせるような素晴らしい快晴だと思い，外に出てからその寒さに驚く。雲1つない空を見上げると，こんな都会でも今日は少し空が高く見える。ふと思う，「ああ，まもなく，あれから2年が経つのだ」。

この2年間，本当に色々なことがあった。早くも話は脇道にそれるが，「色々」という言葉の語源は，文字通り「様々な色」というところから来ている。人間が見ることができる色は，条件さえ整えば750万色とも言われている。この2年間に，自分が行ってきたこと，携わってきたことを大小問わず合算すれば，もしかしたらそれくらい膨大な数になるのかもしれない。だが，そのような様々な事象の中でも，自身の人格を形成する上で，とても重要かつ替えのきかない特別な「色」を，この2年間で獲得したと思う。

「色々」の語源のくだりのように，私を探求心旺盛にさせたのは，2度の論文活動での経験に因るところが大きい。3年次における三田祭論文活動では，ひたすら「なぜ？」と思うところを潰していくために，メンバーとともに昼夜を問わず議論を交わし合い，1つの完成形を創り上げた。そんな我々の「作品」が，関東学生マーケティング大会で優秀賞を獲得し，外部の人々に認められた瞬間の感動は，今でも忘れられない。打って変わって，4年次の卒業論文活動では，たった1人で論理を組み立てる難しさ，そして自分自身の未熟さを知った。なかなか卒業論文の進捗が芳しくない中で，大学院生の方々と同期の仲間に支えられた時に，人の温かさを身に浸みて感じ，本当にかげがえのない人たちに巡り会えた実感した。

小野ゼミでの経験で手に入れた，もう1つの特別な「色」はデザインスキルである。まさかマーケティングのゼミに入って，デザインの能力を求められるとは思ってもいなかったが，自分が伝えたいことを補填するだけでなく，何倍にもわかりやすく伝えることができたり，何十倍にも印象に残るものにできたりと，デザインとマーケティングが深いつながりにあると知り，非常に興味を持った。自身のデザイン能力に自信を持つことができたのには，入ゼミ活動での経験に因るところが大きい。入ゼミイベントのために作成した資料やパワーポイントの出来映えに驚いてくれた下級生が多く，小野ゼミの印象を多くの下級生に残せた手応えがあった。このような活動を通して得たデザインスキルは，今後の進路を選択する上での重要な因子となり，就職活動を経て，それを最大限に活用できる職種に進むこともできた。

さて，この2年間を振り返ると話は尽きないが，そろそろこのエッセイも締めたいと思う。「大学生活は人生の夏休みだ」とよく例えられるが，私はこれから芽を出し，花を咲かすために様々な養分を吸収している，まさに春先前，今頃の時期に当たると感じている。小野ゼミでの経験を糧にし，これから迎えるであろう「春」に向け，様々な色の「花」を咲かせられるよう，これからも精進していきたいと思う。